平成29年
12月発行
第50号

未来に誇れる西宮をつくるために。

http://masatake.jp/
田中まさたけ 検索

西宮市議会議員

田中まさたけ

正　剛

市政・市議会報告

議会改革の先にあるべきもの

西宮市議会では、長年にわたって様々な議会改革を進め、それを明文化した議会基本条例も制定しました。
議会改革は「目的」ではなく、住民福祉の向上、住みよいまちづくりに寄与する「手段」であるべきです。
しかし、今の議会内部の改革は、市民にとっては実感できないものにとどまっていると感じています。
これまで私は、「議員」として政治の活性化を目指して活動してきました。
これからは、「議会」としての「機能の向上」にも取り組む必要があると考えています。
すべては、未来に誇れる「西宮」をつくるために。

市政のゆくえ

■第88代西宮市議会議長に就任しました

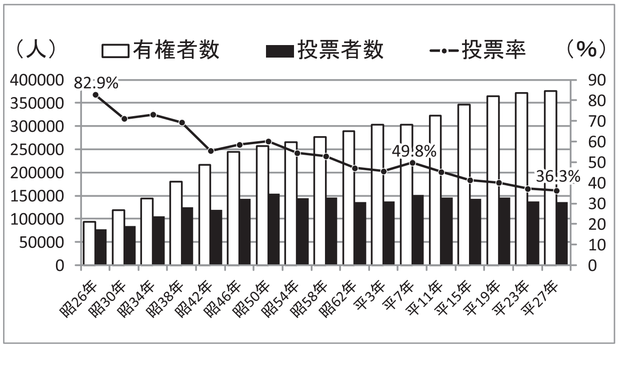
平成29年6月16日に議長に就任し、半年が経過しました。そして、「行動する政治」をかかげ、「4年に一度の選挙前だけではなく、常に市政の現状を多くの皆様にお伝えする」という約束を果たすべく発行し続けてきたこの市政・市議会報告も50号となりました。これからも政治の活性化のため、皆様に市政や市議会の現状をお伝えしてまいります。

■住民との距離を縮め信頼される市議会を

グラフの通り、有権者が増加する一方で、市議会議員選挙の投票率は低下の一途をたどっており、市議会に対する期待が薄れていると重く受け止めています。

そしてこの半年間、議会運営と議長公務に携わり、改めて、この15年間で進んだ議会改革の内容を振り返りながら、今後の課題を考えてきました。現在も進めている議会内部の改革や透明性の向上にとどまらず、市民との距離を縮め、住民の声を議会として政策に反映できる機能を強化することで、頼られる市議会を構築する必要があると感じています。そのために、私はこれまで、「市民との対話なくして真の政策なし」との思いで、意見交換会やアンケートを実施し、寄せられたご意見に基づいて政策提言して参りました。今後は、議会全体でこうしたプロセスを経た政策形成機能を実現できるよう挑戦したいと考えています。

■有権者数・投票者数・投票率の推移



中面：議会での活動特集（議会改革／議長会活動／広報・広聴）について掲載

議会改革のゆくえ ～市議会の存在意義

「市長は選ばれた人によって市政に大きく影響するけれど、議会は誰がやっても同じでしょ。」と言われることがあります。市議会の存在意義を市民に実感してもらえるような機能向上が喫緊の課題です。

議会改革

時代の変化に応じた不断の議会改革が必要です。一層の改革に向けて、議会運営の課題に関する検討会議が始動しています。

■議会運営の課題に関する検討会議

平成29年7月に設置された議会運営の課題に関する検討会議（以下、検討会議）では、議会改革に関する項目を絞り、具体的に調査、議論を始めています。主な項目の動向を報告します。

〇政務活動費不正使用の防止対策

西宮市議会では、先進的に「政務活動費運用に関する手引き」を作成し、透明性の向上、使途の厳格化を図ってきました。先般、他の市議会で相次いで発覚した不正使用を未然に防ぐ方法について、改めて検討することになりました。事後清算方式については、清算事務に要する職員人件費を考慮すると費用対効果が低くなることが懸念されることから、証拠書類の厳格化などに向けた手引きの改正について議論を進めています。

〇災害時の議会BCP（業務継続計画）の策定

市は、法律に基づいて「西宮市地域防災計画」を策定していますが、議会の役割に関する記述はありません。大規模災害の発災後も、議会が市民の代表として役割を果たすために、議会BCPを策定しておくべきあるとの結論に至りました。今後、既存の「西宮市議会における災害発生時の対応要領」を見直し、具体的な議会BCPの策定作業に着手してまいります。

〇議員定数

4年に1度しか見直すことのできない重要事項です。現在の議会の機能を検証しながら、議員定数の適正化について議論を進めなければなりません。

■西宮市議会基本条例の検証

議会の活性化及び議員の資質向上を通じて議会に対する市民の関心や信頼を向上させることを目的として、平成23年3月に、西宮市議会は「西宮市議会基本条例」を制定しました。現在の検討会議の項目には入っていませんが、今後、この条例で定めた、広報及び意見募集に関する実効性等を検証しなければなりません。この条例が制定されたことすら、市民には浸透しておらず、これはひとえに、議会の内部だけの改革にとどまっていることを表しています。まずは、検証方法について調査を進め、課題の洗い出しに取り組みます。

■議場使用に関するルールの見直し

平成29年11月には、私が所属する会派「政新会」の提案により、市政への関心を喚起し高めることを目的に、議場の使用ルールを改正しました。今後、団体等と議会の共催による模擬議会の開催なども可能となります。市民の財産である市議会議場の活用を通じて、議会への関心を高める活動が展開されることが期待されます。

■信頼される、頼られる市議会を目指して

11月に姫路市で開催された全国市議会議長会研究フォーラムに出席しました。民間の議会改革度調査で上位にランキングしている市議会の取り組みが紹介され、西宮市議会の議会改革は、まだまだ先進的とは言えないと感じました。引き続き、市民の実感を伴う改革について提案してまいります。

議長会活動

人口減少社会における課題の解決に向けて、国や県、他市との連携を強化する必要があります。

■市議会議長会の活動

現在、兵庫県市議会議長会の会長も務めています。その他、西宮市議会は、全国、近畿、阪神、中核市の市議会議長会に所属しています。そして、各議長会は、各市の市税で負担される年会費で運営されています。金額は下表の通りです。各市・市議会における課題や先進的な取り組みなどの情報を調査し、課題解決に向けた国に対する要望などの活動をしています。

■議長会の課題

半年間、各議長会に出席し、全国市議会議長会を除いて、以下の課題を見出しました。

市議会議長会	年会費
全国	160万円
近畿	15万円
兵庫県	17万円
阪神	10万円
中核市	5万円
合計	207万円

・会議や国・県への要望などの活動の多くが、形骸化しつつある。
・事務局も各市で持ち回り（1年交代）のため、広報機能もなく情報共有が図りにくく、国や県への要望内容等の調整機能が弱い。
・議長会で協議されている情報が、西宮市議会で共有できていない。

正副議長は、1年ないし2年で交代している市議会が多いことから、今の組織運営では、課題を解決する機能も弱くなります。<u>まずは、議長会で協議されている情報を市議会で共有するとともに、議長引継ぎの強化と議会全体での後方支援の体制強化について検討したい</u>と考えています。

特別支援教育に関する要望について、文部科学大臣政務官に対して詳細を説明

広報・広聴

今後は、議会としての「広聴」による政策形成の仕組みを構築する必要があります。

■高校生を対象にした広報事業

7月に、市立西宮高校の生徒に対して、議場で市議会の役割について議員が講義しました。

10月には、県立西宮今津高校の生徒有志により、実際に生徒が質問を作成し、議員が答弁する形式の「模擬一般質問」に対応しました。

毎年12月には、市立西宮東高校の生徒が授業の一環で一般質問の傍聴に来てくれています。

<u>これらは、次世代を担うの「人」の育成の観点からも、改善を重ねて継続すべきと考えています。</u>

■にしのみや市民祭りでの議会体感ツアー

市役所周辺で開催されるにしのみや市民祭りの際に、市議会にも寄っていただいて、市議会のことを知ってもらおうと、昨年から始めた取り組みです。今年は雨天にも拘らず、昨年を上回り、約250名の方にご参加いただきました。

■「広聴」機能の強化が課題

このような議会広報の取り組みは、アンケートの結果では大変好評を頂いています。しかし、政策に関する広聴機能には、課題があります。<u>議会広聴として「意見交換会」を開催し、そこで得た意見や情報をもとに議員間討議を経て形成された政策を、市に提言する市議会が増えています。</u>この取り組みを西宮市議会でも実現できれば、議会の存在意義を実感してもらうと同時に、住民参加によるまちづくりの実現に近づくと考えています。

TOPICS 市政情報

私たちにとって身近であるべき市政の情報を、少しでも多くの方に知っていただきたいと願い、設置しているコーナーです。

重要な政策案件が目白押し。市が実施するパブリックコメント（意見提出手続）で寄せられるご意見と市の対応を、議会でもチェックしています。

■第5次西宮市総合計画（※）の策定

今後10年間の西宮市のまちづくり全体の方針を示す重要な計画となりますので、慎重な議論が必要です。市議会でも、全常任委員会において、これまで10年間の取り組みの検証が始まりました。平成30年6月には、市民向けのパブリックコメントが実施される予定です。

計画期間10年間の活用可能財源を798億円、実施可能な事業費を2090億円と試算しています。内訳としては、学校の改築（13%）、ゴミ処理施設の整備（14%）、道路等インフラ整備（19%）、施設の修繕・改修（24%）など、公共施設やインフラ整備で98%を占めると見込んでいます。つまり、既存の施策を拡充したり、新たに施策を実施するためには、既存の事業を廃止せざるを得ない時代に突入すると言えます。この事業の取捨選択については、総論賛成、各論反対の議論となり、進めるには困難を極めます。だからこそ、住民参加のもとで議論ができる環境を整備する必要があり、それを実現するのが議会の役割でもあると考えています。今、議論した結果が、10年後の西宮の姿になると言っても過言ではありません。ご注目頂きたいと思います。

※総合計画とは
西宮市では、計画期間を10年とし、市が目指す姿を示した「基本構想」、それを実現するための具体的な財源や施策を示した「基本計画」、その施策の実施年度などを示した「実施計画」によって構成されており、まちづくりの指針となるものです。

■中央体育館・陸上競技場等再整備

先般、基本計画（案）が示されました。体育館整備に約89億円、陸上競技場整備に約17億円、公園整備に約14億円を要し、総事業費の概算は約147億円との試算が示されました。また、地域防災拠点、避難所としての機能も有する内容となっています。そして、新体育館の供用開始予定は2025年度、全体の供用開始を2027年度を目標としています。スポーツ推進政策の見直しと工期短縮による事業費の圧縮が課題であると考えています。ご意見をお寄せください。

■西部総合処理センター焼却施設等再整備

芦屋市のゴミ処理場との統合によるゴミ処理の広域化が検討されています。現在、公開された検討会議において、芦屋市民が排出する廃棄物を、西宮の処理施設で処理する方向で検討が進んでいます。

海を挟んで、隣接して建つゴミ処理場

発行責任者
田中正剛　たなか まさたけ
昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市会議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選（27歳）
■政党：自由民主党　■現在の担当常任委員会：建設常任委員会（委員長）
■市議会での主な役職：厚生常任委員会委員長（1期3年目）、西宮市監査委員（2期1年目）、フレンテ問題特別委員会委員長（2期3・4年目）、病院問題特別委員会委員長（3期1・2年目）、阪神水道企業団監査委員（3期3年目）、副議長（3期4年目）、建設常任委員会委員長（4期2年目）

過去発行分のチラシも是非ご覧ください！ご連絡頂きましたらお届け致します。

○第49号　膨張する西宮市政
・掲載内容：市職員定数の増加/増大する人件費/交通政策
市の借金のゆくえ/公共事業・投資的経費の増大など

○第48号　押し寄せる少子高齢化の波
・掲載内容：人手不足問題/自治会活動支援/こども食堂/家庭教育支援/介護予防サービスの制度変更など

市政に対するご意見・ご要望は、田中まさたけ事務所まで。〒662-0854　西宮市櫨塚町3-4　西宮グローリービル304
TEL：0798－22－5172　FAX：0798－22－6172　E-mail: nishinomiya@masatake.jp